

令和8年度 第1回 久慈構想区域地域医療構想調整会議 会議録

日 時：令和8年9月15日(火) 18:30～19:50

場 所：久慈地区合同庁舎 6階 大会議室

出席者：委員23名中 21名(うちオンライン5名)

オブザーバー1名

事務局 11名(医療政策室2名、
長寿社会課3名(オンライン)
保健所6名)

傍聴者：6名

1 開会（浅沼久慈保健所次長）

2 挨拶（小守林久慈保健所長）

昨年度から久慈保健所長を拝命しております小守林と申します。

まず、今般の熊本地震及び千葉豪雨など自然災害で犠牲になられた方々の御冥福をお祈りしますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

当地域におきましても、日本海溝千島海溝周辺海溝型巨大地震による被害が懸念されているところございまして、久慈保健所といたしましては、これらを自分事として、関係の皆様方とともに必要な備えを進めて参りたいと考えております。

さて、本日は、御多用のところ、久慈構想区域地域医療構想調整会議に御出席いただき、感謝申し上げます。また、日頃より、圏域の保健、医療、福祉行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。

高齢化の進展に伴いまして、今後ますます、医療と介護の連携が重要となっており、これが今回の大きなポイントとなります。このことを受けまして、新たに久慈市と洋野町の介護部門から中新田委員、大下委員に加わっていただいております。

本日は、新たな地域医療構想の策定の他、岩手県保健医療計画の中間見直し、第10期介護保険事業支援計画の策定などについて御協議いただくこととしております。

限られた時間ではございますが、委員の皆様には忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 議事（議長：小守林久慈保健所長）

(1) 新たな地域医療構想の策定について

資料1により、県医療政策室 石川医療政策担当課長から説明（省略）

【質疑・意見等】

遠野委員（県立久慈病院長）： 資料1、63ページの基幹病院から1時間移動した場合の移動範囲（精査中）ですが、葛巻は1時間圏に入らず、そういう状況だと思いますが、宮古病院からは、安家の方まで広く行けることになっていますし、久慈病院からは、実際こんなものかと思いますが、これは、どんな方法で調べたのでしょうか。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 63ページの地図につきましては、区域毎、久慈ですと、洋野町、久慈市、野田村、普代村、それぞれの市町村役場の庁舎から、圏域の基幹病院までの移動時間をプロットしたものです。役場は、その町の中心部にあり、地域によって他にも中心地になるところがあれば、教えていただければと思いますが、そういう客観的な一定の考え方で整理したものでございます。

遠野委員（県立久慈病院長）： 構想区域を考えるとときに、20万人単位という原則は、岩手県には馴染まないもので、こういうアクセスが詳しく分かると考えやすいかと思いますが、移動時間は地元の方の申告ということでしょうか。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 道路の移動時間は、医療政策室で、サイトから調べたものでございます。

小野寺委員（野田村保健福祉課長）： まず、地域医療構想について、国のガイドラインに沿った形で作り込んでいくというお話かとお伺いしましたが、この中で、前回の会議でもお伺いしたような気がします。救急車両が八戸方面に向かうことに伴う医療の空洞化という問題が大きくクローズアップされると思います。

あと、患者が県外に流出しているという意味合いの中で、構想の作り込みがなされていく懸念があるのかと思いますが、流出という状況が何で生まれているかということも、クローズアップしてみいただければと思います。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 救急車が手薄なのではないかという昨年度の会議でもお伺いしたこと、県外への患者流出について背景を考察する必要があるという御意見でございましたが、それぞれ考えておりまして、そういったところも考慮しながら検討したいと考えております。

もう少し詳しくお話いたしますと、救急車の活用は、私、昨年度、直接、御意見を伺いまして、医療政策室内の救急を担当しております者にお話を伝えて、どういった対応ができるか相談いたしました。民間の救急車という御提言そのままということではなく、ちょっと違う方向性で恐縮ですが、今年度、令和8年度の県予算事業の中で、病院救急車活用促進事業費補助という事業を始めております。

こちらは、国の補助金を活用して、病院の救急車による病院間の患者の転院搬送に必要な経費を補助させていただくというものでございまして、趣旨、方法論としては、若干違う部分があるかもしれませんが、消防様の救急車に余力が出るようにという観点では、目指しているところは共通と思っておりますので、そういった形で、補助事業を活用させていただきながら取り組んでいるところです。

また、救急という意味では、ドクターヘリの関係で、皆様御存じだと思いますけれども、3者同時通話という形で、岩手県内で、消防指令さんのところと、県内のドクターヘリの拠点である岩手医大さんと、八戸市民病院さんの間で、同時に通話して、八戸の方が良いとなった場合は、その場で話が決まって、直ぐ八戸に搬送できるようになっておりますので、厳しい状況というのは前提としてあるとは思いますが、そういった形で、一步でも二歩でも、現状をより良くできるよう、県としても取り組んで参りたいと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。

中屋敷委員（久慈広域連合消防本部消防長）： ただ今の病院救急車の転院搬送に要する経費への補助は、具体的には、いつ頃からとなりますでしょうか。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 御紹介した病院救急車活用促進事業につきましては、令和8年度の県の当初予算に計上しておりますので、今年度からということですが、具体的に何月からということにつきましては、詳細の資料がこの場にございませんので、差し支えなければ、個別に確認してお知らせさせていただく形で、御紹介できればと思います。

中屋敷委員（久慈広域連合消防本部消防長）： はい、分かりました。ありがとうございます。

資料1の55ページで、看護師の数が足りないというお話がありましたが、救急救命士が病院で働くということが、八戸市民病院など、様々今進んでいる状況ですが、医療局としても、救急救命士の県立病院での活用を何か検討されていますでしょうか。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 私、県庁の保健福祉部の医療政策室の所属で、医療局とも関係するので、検討しているか否か、把握していれば良かったのですが、承知しておりません。

ただ、人材確保という意味で、ドクターや看護師が少なく、他分野の方も人材確保に苦慮されているかとは思いますが、多職種連携、情報共有して協力して対応していくことが、これまでに以上に大事になりますので、大事な視点だと思っております。

医療局で検討しているかどうかについては、確認の上、お知らせさせていただければと思います。

中屋敷委員（久慈広域連合消防本部消防長）： 医療局なのか、医療政策室なのか、どちらで検討すべき内容か把握しないで質問して、申し訳ありませんでしたが、消防サイドでは今後検討していただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 岩手県保健医療計画の中間見直しについて

資料2により、県医療政策室 石川医療政策担当課長から説明（省略）

【質疑・意見等】

なし

(3) 第10期介護保険事業支援計画の策定について

資料3により、県長寿社会課 佐々木主事から説明（省略）

【質疑・意見等】

七十刈委員（久慈市民生児童委員協議会長）： お話のとおり、人口が減少していくわけで、高齢者が増加し、その中で、医療と介護の連携が重要な問題でございます。

これについては、早めに対策を練っていかなければなりません、介護は、施設系よりも、訪問介護及び在宅の方が非常に少ない。高齢者の方の負担が増えていくということでございます。施設型は要介護3以上でなければ入所できないという基準がありますので、それに当てはまらない高齢者に対する対策が必要です。医療の中でも、看護師さんとか医師の不足で対応できないのではという現象があり、高齢化が進む中で非常に厳しい環境になっていくと思っております。そういう中で、介護従事者の生活の保障である報酬が非常に低いわけです。そこを上げていくことによって、従事者が確保できれば、連携が十分取れていくのではないかと考えておりますので、そこを考え、今後の計画を早期に進めてもらいたいと思います。

遠野委員（県立久慈病院長）： 施設利用が重要になってくるということで、施設の人材として外国人の方が重要になると思いますが、何か外国人獲得の方策、今後の展開はあるのでしょうか。

実際、私が診療している施設では、施設にもよりますが、外国の方が雇われており、それは施設ごとの考え方ということになりますでしょうか。何か大きい方針はあるのでしょうか。

県長寿社会課 赤坂介護福祉担当課長： まず、県全体の事業所の外国人の人数ですが、着実に増えてきており、毎年数十人ずつ増えている状況にあります。県の施策としましては、各事業所さんに、外国人の方を受け入れやすい環境を整えるための補助金を出したり、研修を実施したり、また、新たに今年度からは、来ていただいた外国人の方にできるだけ定着していただくため、外国人の方を対象にした介護福祉士の資格を取得するための講座を実施したり、その講座を活用して、外国人の方同士の交流を深める取組を実施しております。

県でも、外国人の方を確保していくということが、非常に重要だと考えておりますので、そのための施策をこれからも強化していきたいと考えております。

(4) 外来医療機能・かかりつけ医機能について

資料4-1、4-2により、県医療政策室 石川医療政策担当課長から説明（省略）

【質疑・意見等】

なし

(5) 岩手県保健医療計画(地域編：久慈圏域)の中間見直しについて

資料5により、久慈保健所 斎藤企画管理課長から説明（省略）

【質疑・意見等】

なし

4 その他

磯崎委員（国保種市病院長）： 良い資料を準備いただき、ありがとうございます。

資料1、64ページの急性期の受療動向詳細をみると、久慈圏域は、県外への流出が25.4%と高くなっていますが、国では、県を跨いで新しい構想区域の設定を認めているのでしょうか、或いは、そういう考え方はあるのでしょうか。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 国のガイドラインで、そういう考え方もあるということが示されております。人口減少の中で、医療アクセスですとか、そういうところを考慮しつつも、症例数の確保といったものを考えていくときに、県境地域であれば、他県とも連携して、他県と一体的な地域医療構想の取組も可能とされています。

ただ、今のところ、全国でそういった例はないという状況です。県境については、相手もあることでありますので、こちらの圏域については、県庁の方で、毎年1回程度、青森県庁と情報交換や意見交換をしております。

磯崎委員（国保種市病院長）： 難しい質問で申し訳ないと思ったのですが、実際、この圏域では急性期脳卒中は、もう既に他の圏域と連携ができていて、連携しているわけで、そういったことを考えると、将来に向かって他の圏域と一緒に、八戸圏域辺りと仲良くなるのがいいかということを考えることがあり、それは許されるのかどうか伺ってみました。

県医療政策室 石川医療政策担当課長： 大事な観点だと思います。ありがとうございます。

国の制度上は、そういう県境を跨いだ構想区域における一体的な取組も可能となっております。

実際ということになりますと、相手の県の考え方もありますし、昨年来、こちらの会議にお伺いしたときには、生活圏が八戸と一体なので、八戸圏と一体で考えたいという御意見も伺いましたし、一方で、久慈圏域の中でも、地域によっては、八戸は遠いので、久慈の中で、もっと解決できるようにして欲しいというようなお話も伺いました。

そういう、いろいろな観点があると思いますので、医療アクセスも踏まえながら、そういった御意見を参考にしながら検討し、先ほどお話ししましたように構想区域については、複数案、御提示して、御意見を伺いたいと思っております。現状の構想区域を維持するという案と、見直した案、それぞれメリット、デメリットがあるかと思っておりますので、そちらを整理して、その上で、改めて御意見をいただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

5 閉会